

# 堺市立新檜尾台小学校

平和の象徴・生命の木である「オリーブ」を通して児童生徒の 自然科学の芽を育み、地域と協働して行う持続可能な社会づくり



# 小学校を核とした学・産・地域連携

## 目標は学校オリーブの6次産業化

大阪府堺市南西部に位置する堺市立新檜尾台小学校では、4年生44名が中心となって、今年度から校内でオリーブの木を栽培している。児童数減少で管理が行き届きづらくなった学習農園の活用法を探っていたところ、地域のオリーブ農園主からオリーブ栽培に適した環境だと教示されたことがきっかけとなった。

以後、古谷俊之校長の「単に木を育てる一過性の活動にしたくない」との思いから、大阪府立農芸高校と連携してオリーブオイル残渣を養豚飼料に加える共同研究を行っているほか、大阪公立大学などと協力して学校産オリーブの加工や商品化も模索。古谷校長は「生産から販売まで、1次~3次産業を合わせた学校オリーブの6次産業化が目標です」と胸を張る。





#### ●実施担当

古谷俊之 校長

#### ●活動のモットー

「探究と協働をど真ん中におく学校づくり」を掲 げ体験活動や本物志向を重視した科学的追究 に力を注ぎ、自立貢献する人間づくりをめざす



校

概

目指す子ども像は「社会の中で人とつながり、 よりよく生きる子」。 堺市の多様性推進策に 伴い、民間出身の古谷校長が就任。

設 立: 1979年 生徒数: 268人

所在地:大阪府堺市南区新檜尾台3-7-1









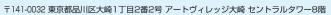
### 「これやりたい」が止まらない

活動に巻き込んだのは農園や高校・大学だけではない。「4年生だけで雑草取りは大変なので、校内イベントとして他学年生に手伝ってもらった」(尾尻花さん)、「夏休みの水やりは地域自治会の人たちに協力してもらい、ラジオ体操後に行った」(塩見友都さん)、と、他学年や地域も巻き込んでいる。

上述は総合学習で4年生が意見を出し合って自主的に実行した。総合学習では自主的なグループ研究も行っており、「オリーブの葉のお茶を作って、品種による味の違いを調べたい」(井谷祐大さん)、「挿し木作りでオリーブを増やしたい」(大橋翔さん)と、活動が広がっている。総合学習担当の塾手佳祐教諭は「活動開始から約半年ですが、ほかにも、肥料を作りたい、自分たちで搾油したいなど、子供たちの『これやりたい』が止まりません」と教育効果を実感。これを見た古谷校長は、「我が意を得たり」と言わんばかりの笑みを浮かべていた。 (複数校連携助成1年目)

この活動は、中谷財団の「科学教育振興助成」により行われています。





中谷財団 検



